

# Chairman's Correspondence

## アニーのミュージカル

私は毎年ミュージカル「アニー」を見てもう30年ぐらいになります。岡田真澄さんや目黒祐樹さん、上条恒彦さんのウォーバックス役を見ていましたから、今はだいぶ現代的になったなあ感慨深いです。

「アニー」の舞台は、大恐慌のさなかのニューヨークです。当時、第二次大戦前、内外の世情は何かと行き詰まりを見せ、閉塞感が漂う社会情勢が、今の日本と似ていると思います。しかし、だからこそ「夢と希望を失わず」に前に向かっていくことの大事さを「アニー」からもう一度学んだような気がします。

「アニー」はニューヨークの孤児院の女の子ですが、孤児を扱ったミュージカルにもうひとつロンドンの男の子を描いた「オリバー」があります。これも名作で、DVDで借りられますので、是非お勧めしたい作品です。ちなみに、欧米ではもう孤児院という施設はありません。すべて養子に出されます。

ともあれ、「夢」は大人ばかりでなく、子どもたちにこそ必要な一番の宝物。将来に大きく羽ばたくためにも、今は十分に様々な経験を溜め込んでおく時です。

6年生はいよいよ旅立ちの時がやってきました。  
これまでの経験はきっとかけがえのない宝物として  
必ず生きてくることでしょう。

迷ったらいつでも母校にいらっしやい。

解決はできなくとも話を聞いてあげることにはできるから。

風よ光よ空駆ける雲よ！この子らに幸あれ！  
みなさん、元気で行ってらっしやい！

# Chairman's Correspondence

## 学童を卒業する皆さんへ

先日テレビのインタビューで、成人になる若者がこう言っているのを聞いて感心しました。

「大人になるということは、愛情を受ける側から愛情を与える側に立つということだと思います。その境界を越えたことを成人とよぶのだと思います。」



成人して学校を卒業すれば、自立して自分で食べていかねばなりません。つまり職業に就くわけですが、人は人生の大半の時間を職業に費やすので、その時間は単にお金を稼ぐだけではなくその人にとってやりがいがあり意味のある時間であることが理想です。

人は「何をやりたいのか？」という目標をもって生きることがとても重要です。多分「こういうことをやりたい。」と目標をもつ人は、それが好きで、仕事での苦勞も苦勞と思わず、失敗しても何度でも挑戦し、自分の可能性のために働くことから、結果、成功する確率も高いのです。しかし「やりたいことがわからない」という人が多くいることも確かです(かなり多くの方は自分探しの旅を続けるものです)。その時は、まず「やりたいことを自分の得意なこと」の中で探してみましょう。

**得意なことは、好きなことより現実的に職業に結び付きやすい。**

さらに、「こういうことをやりたい」という自分の個人の楽しみだけを追わず、視野を広げて「**社会のために**」「**人類のために役立つこと**」を考えてみることも大切です。

これから先、それらを探す旅が始まります。成人を迎えるころまでに目標を立てられると良いと思います。さらに、やりたいことは人生の途中で変わるかもしれません。それは全く問題ありません。いくつになっても勉強をし直してもよいのです。

人生は死ぬまでチャレンジ。世の中には70歳から英語を勉強して塾を開いたおばあさんもいます。学童をお別れする皆さん、卒業する皆さん！リリーは皆さんの心の故郷です。

たくさんの経験をして基礎はできました。

ここで体験して学んだことは、必ず次のステージで生きてきます。

**これからの人生！元気で！行ってらっしゃい！**

